

## 第2回イノベーション戦略調整会議 議事録

1. 日時 平成30年3月19日（月）16:50～17:10
2. 場所 総理官邸4階大会議室
3. 出席者
- |     |        |   |
|-----|--------|---|
| 副議長 | 松山 政司  | 内閣府特命担当大臣（科学技術政策、知的財産戦略、宇宙政策）兼 情報通信技術（IT）政策担当大臣 |
| 構成員 | 茂木 敏充  | 経済再生担当大臣 兼 健康・医療戦略担当大臣<br>兼 内閣府特命担当大臣（経済財政政策）   |
|     | （越智 隆雄 | 内閣副大臣 代理出席）                                     |
| 同   | 梶山 弘志  | 内閣府特命担当大臣（規制改革）                                 |
| 同   | 福井 照   | 内閣府特命担当大臣（海洋政策）                                 |
| 同   | 野田 聖子  | 総務大臣  |
|     | （坂井 学  | 総務副大臣 代理出席）                                     |
| 同   | 河野 太郎  | 外務大臣  |
|     | （堀井 学  | 外務大臣政務官 代理出席）                                   |
| 同   | 麻生 太郎  | 財務大臣  |
|     | （長峯 誠  | 財務大臣政務官 代理出席）                                   |
| 同   | 林 芳正   | 文部科学大臣  |
|     | （水落 敏栄 | 文部科学副大臣 代理出席）                                   |
| 同   | 加藤 勝信  | 厚生労働大臣  |
|     | （大沼みずほ | 厚生労働大臣政務官 代理出席）                                 |
| 同   | 齋藤 健   | 農林水産大臣  |
|     | （礒崎 陽輔 | 農林水産副大臣 代理出席）                                   |
| 同   | 世耕 弘成  | 経済産業大臣  |
|     | （西銘恒三郎 | 経済産業副大臣 代理出席）                                   |
| 同   | 石井 啓一  | 国土交通大臣  |
|     | （牧野たかお | 国土交通副大臣 代理出席）                                   |
| 同   | 中川 雅治  | 環境大臣  |
| 同   | 小野寺五典  | 防衛大臣  |
|     | （大野敬太郎 | 防衛大臣政務官 代理出席）                                   |
| 同   | 杉田 和博  | 内閣官房副長官   |
| 同   | 和泉 洋人  | 内閣総理大臣補佐官                                       |

### 4. 議題

- (1) 「統合イノベーション戦略」の策定に向けて早急に検討調整すべき事項

### 5. 配布資料

- 資料1 「統合イノベーション戦略」の策定に向けて早急に検討調整すべき事項  
参考資料 統合イノベーション戦略の策定のプロセス

## 6. 議事

### 【松山科学技術政策担当大臣】

定刻となりましたので、第2回イノベーション戦略調整会議を開会いたします。

本年2月2日に第1回イノベーション戦略調整会議を開催され、統合イノベーション戦略に盛り込む主な項目を示しました。

本日の会議では、主要項目について、現状、主要目標、具体的に講ずる主要施策の案を示し、特に、今後早急に関係本部・省庁間で調整し、方向性を共有すべきものについて説明したいと思っております。

今年年央には統合イノベーション戦略を閣議決定したいと考えており、早期に調整を終え、イノベーション国家の創造に向けた戦略を策定したいと考えています。関係大臣の皆様方の御協力をよろしく申し上げます。

それでは議事に入ります。

議題は、「統合イノベーション戦略」の策定に向けて早急に検討調整すべき事項です。

まず初めに、和泉総理大臣補佐官から説明をお願いします。

### 【和泉内閣総理大臣補佐官】

お手元にA4の資料、及びA3の別添が配布されております。御覧ください。

A3の別添は、各省庁で検討していただきたいこと全てを記載しており、今後はこの資料をベースに調整したいと考えております。

なお、例えば安全・安心など、いまだ盛り込まれていない項目もありますが、これは検討途中でございます。今後、今、大臣おっしゃった統合イノベーション戦略をまとめる段階で盛り込んでいく予定でございます。

A3の別添は、項目、内容とも多岐にわたりますので、早急に検討調整したいものを抜粋したA4の資料に沿って説明させていただきます。

まず大学改革です。大学は我が国の科学技術イノベーションの核であり、それを中心に産学連携、外部資金獲得、若手が研究に打ち込める環境確保などを進めることが重要でございます。

改革の萌芽は出始めていますが、スピード、スケールを抜本的に拡大する必要があります。

このため、若手研究者の活躍を促進すべく、科研費が若手や基盤的な研究に行き渡るように見直し、及び年俸制拡大や民間の役職定年を参考にした新しい人事制度導入を進める必要があります。

また、外部資金獲得がインセンティブになるような制度を導入するなど、大学が経営強化に取り組めるような仕組みが必要です。更に、運営費交付金のみを対象とした改革では限界があることから、運営費交付金と競争的資金を一体的に改革することが必要です。

更に学際的研究や異分野融合を進めることにより、イノベーションを促進する観点等から大学間の連携、再編が柔軟にできる制度を導入することも必要であります。

産業界も当事者意識を持って大学改革に取り組む必要があります。例えば、大学改革を支援するコンソーシアムを創設するなど、産業界と一体となって改革を進める仕組みが必要でございます。

次に政府事業のイノベーション化です。破壊的イノベーション創出のためには、先進技術を使用する機会を拡大、社会実装することが大事です。

そのためには、政府も率先して、先進技術の活用を後押しし、早期社会実装を実現する必要

があります。来年度から国交省で始める工事事業への新技術導入促進策などはモデルとなりますが、その規模や対象を拡大していくことが重要です。

更に自治体も含めた公共調達や社会保障関連事業等においても可能な限りイノベーションを促進する仕組みに変えていく必要があります。

一方で、総合科学技術・イノベーション会議はこれを継続的・効果的に支える枠組みを検討するべきです。

次にAIです。既にまとめられたAI技術戦略の課題のうち、データ連携に関してはSociety 5.0に関する取組が、研究開発に関してはSIP事業などが進められています。

しかしながら、AI人材は残された大きな課題です。AIの利活用が社会に浸透する中、読み書きそろばんと同じようにITやAIの技術を使いこなせるリテラシーが必要です。しかしながら、大量に不足すると言われてしているAI人材について、どういった人材がどの程度不足するのかが十分に見えておりません。各省で実施されている施策についても連携と役割分担が十分になされているとは言い難い状況でございます。

将来必要な人材の量、質を明らかにした上でIT教育の加速、大学専門教育の拡充など、追加施策について関係省庁が連携して、早急に検討する必要があります。

農業分野は、新技術利活用をして、潜在的な成長余力を顕在化していく必要があります。SIP事業などを活用し、技術開発を加速、展開すると共に、日本に根づかせ、2025年までに農業の担い手のほぼ全てがデータ活用できるようにすることが必要です。

更にこうしたシステムを世界展開することを通じ、地域と世界に直結させ、農産物の海外輸出について、2019年に1兆円、その実績のもとに、新たに2030年に5兆円という高い目標を掲げることが重要です。

農林水産省は省を挙げて取り組もうとしております。関係省庁もしっかりと協力することが重要です。

環境エネルギー分野です。

パリ協定の目標達成には、環境エネルギー分野でのイノベーションのかぎであり、大きなチャンスにもなります。我が国は、サンシャイン計画などの大規模な研究開発を実施し、成果も出してきましたが、太陽光発電、風力発電の世界市場では諸外国の後塵を拝しているのが現状です。

また、不安定な再生可能エネルギー導入量の増大と、環境エネルギー分野のデジタル化の進展が相まってエネルギーマネジメントがこれまで以上に重要となってきます。

今後、実用化を見据えた研究開発を行い、成果を世界に展開するための国際戦略を構築することが必要です。

今年改定される第5次エネルギー基本計画、第5次環境基本計画等にこうした考え方を反映させる必要があります。

統合戦略は、全体が連動して初めて効果を発揮するものです。常に世界の動向を見据えながら、分野横断的な連携と個別分野での積極的な戦略構築、実施を一体的に進め、日本の本格的なイノベーションを実現していくことが必要であります。

説明は以上でございます。

【松山科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

それでは、本議題について、関係大臣から御発言を頂きたいと思っております。時間も限られてお

りますので、各位2分程度でお願いをいたします。

まず中川環境大臣、お願いいたします。

**【中川環境大臣】**

パリ協定のもとで、温室効果ガスの2050年80%削減を目指し、世界の脱炭素化を牽引していくに当たっては、従来の延長線上にないイノベーションが必要であります。

今回取り上げていただいた再エネ、水素等については、一層の拡大に向け、基礎研究から社会実装まで、政府としての一貫した戦略が必要であります。

また、SDGsを踏まえた我が国の世界貢献という観点も重要と考えております。

これらの検討に当たっては、環境省も積極的に役割を果たしてまいります。

今回示された方向性とパリ協定に基づき我が国が策定する長期低炭素戦略が目指すべき方向性は軌を一にしていると認識しております。来年度からの政府全体での長期低炭素戦略の検討におきましても、総合科学技術・イノベーション会議としっかりと連携してまいりたいと考えます。

以上です。

**【松山科学技術政策担当大臣】**

次に、越智内閣府副大臣、お願いします。

**【越智内閣府副大臣】**

経済財政諮問会議及び未来投資会議では、CSTIと共に官民の研究開発投資拡大とSociety 5.0の実現に向けて、各省庁の施策の有機的、一体的な連携に向けて協力してまいりました。

具体的には、経済財政諮問会議や未来投資会議のもとに設置された構造改革徹底推進会合とCSTIとの間で合同会議を開催し、イノベーション力の強化や大学改革の具体的な方策について連携して議論を進めております。

またバイオ戦略の検討などにおいて、健康医療戦略推進本部と共にCSTIと協力しながら、研究振興策を議論しております。

生産性向上に効果の高い研究開発を迅速かつ機動的に展開するには、政府が一体となって政策を進めることが重要であります。

今後ともCSTIと協力して具体的な取組を議論し、検討の結果はこの夏に策定される骨太の方針や未来投資戦略にもしっかりと反映させていきたいと考えております。

以上です。

**【松山科学技術政策担当大臣】**

次に、水落文部科学副大臣、お願いします。

**【水落文部科学副大臣】**

文部科学省としては、イノベーション力や基礎科学・人材力の強化の取組を進めると共に、世界最高水準のイノベーション国家創造を目指す統合イノベーション戦略の策定に向けて検討を進めてまいります。

まず、大学のイノベーション創出力を強化するため、若手研究者の活躍促進や大学の研究力、

産学連携の強化に取り組んでまいります。

具体的には、若手研究者の活躍促進のため、人事給与マネジメントの改革に取り組み、人事給与改革の運用指針の策定等を通じて、メリハリある処遇を実現し、若手研究者の意欲や能力の向上を促します。

また、科研費等の研究生産性の高い事業等について、若手研究者を中心としたリソースの重点配分や制度改革を進めると共に、大学改革等と連動して、共同利用、共同研究体制の強化など、研究環境の整備を進めます。

更に大学のイノベーション拠点化に向けて、経営的視点に基づく大学運営や経営と教学の機能分担、広く学外の声を取り入れた大学運営などを推進します。そのため、大学と対話しながら、大学のガバナンスの指針としてガバナンスコードの策定を進めます。

加えて、複数の大学の人的・物的リソースを効果的に共有できるよう、国公私の枠組みを超えた大学の連携等の在り方について、中央教育審議会でも引き続き検討を進めてまいります。

個別の重点分野については、人工知能に関しては、今後見込まれるAIを含むIT人材の不足の解消に向け関係省庁と連携し、必要とされる施策について早急に検討してまいります。

更に環境エネルギー分野については、これまでも国際的な動向を踏まえ、実用化を見据えて、革新技術の研究開発を進めてきており、引き続きPDCAサイクルを回しつつ、研究開発を進めてまいります。

文部科学省としては、関係省庁との調整を進めると共に、これらの取組や検討を一層加速してまいります。

以上です。

#### 【松山科学技術政策担当大臣】

次に、磯崎農林水産副大臣、お願いいたします。

#### 【磯崎農林水産副大臣】

農林水産省では、農業の成長産業化と農業者の所得向上に努めているところでございますが、平成28年の農業総産出額は過去17年で最高の9.2兆円、生産農業所得も過去18年で最高の3.8兆円に達しました。また、農林水産物・食品の輸出は2019年までに1兆円の目標を掲げる中、昨年の輸出額は8,000億円を超え、5年連続で過去最高を更新するなど、成果が着実に出ております。

今後、海外市場も視野に入れた、世界との競争に勝ち抜く強い農業を実現させていくためには、AIやICT等の先端技術を活用し、農業の生産性を飛躍的に向上させることが不可欠であると考えております。これまで、ロボット収穫機の開発など、スマート農業を推進してまいりました。今後はデータの自動センシング・自動管理を可能とする技術や、広範な地域に導入可能な小型・機能特化型の農業機械の開発など、データ駆動型のスマート農業への進化を目指します。

また、担い手がデータに基づき生産性の向上や経営改善に挑戦できるように、ICTベンダーなどと協力し、データの連携・共有やオープンデータの提供を可能とする農業データ連携基盤の構築を進めています。

更にその機能を生産から加工・流通・販売まで拡張させ、スマートフードチェーンシステムの構築に取り組んでまいります。これらの取組を通じ、2025年までに農業のほぼ全ての担い手がデータを活用した農業を実践できる環境を整備してまいります。

以上です。

【松山科学技術政策担当大臣】

次に、西銘経済産業副大臣、お願いいたします。

【西銘経済産業副大臣】

イノベーション推進のため、政府全体で整合性のある戦略の作成は重要です。経済産業省としても、統合イノベーション戦略の策定に貢献したく思います。

それに当たってはC S T Iを中心に、関係府省庁間で十分に検討、調整を行っていただきたいと思います。

具体的には、A Iについては人材育成が急務です。I Tリテラシーや理数教育の強化、事業と研究の双方におけるトップ人材育成の充実、社会人を対象としたI Tの学び直しの支援充実が必要です。

次に、エネルギー・環境分野については、中長期的なエネルギー政策の在り方につき、エネルギー情勢懇談会で検討中です。温室効果ガスの大幅削減には、従来の延長線上にないイノベーションが不可欠で、そのためにも排出量で自らの可能性を縛ることなく、エネルギー政策の柔軟性の担保が必要です。2050年に向けた長期戦略で我が国だけが特定部門の排出量をコミットすることは避けるべきで、同時に、また我が国のあらゆるエネルギーに関する優れた技術を海外に展開し、各国のエネルギー転換を牽引していくことが大事だと考えます。

以上です。

【松山科学技術政策担当大臣】

次に、長峯財務大臣政務官、お願いいたします。

【長峯財務大臣政務官】

我が国の科学技術の国際競争力を高めるために諸外国に比べて低いレベルにとどまっている研究開発の生産性を高める必要があるとの問題意識は私どもも共有をいたしております。

国民負担率が主要先進国に比べ低い中で、我が国の科学技術関係予算は主要先進国に比肩する水準であります。

他方で、民間企業の保有現金等も過去最高水準を記録する中、企業が大学に投じる研究開発消費は低迷しています。限られた公費を有効に活用するため、民間資金とのマッチングは大変重要でございます。

そうした観点から、今ある事業の中で、社会実装に近いにもかかわらず、民間資金とのマッチングが進んでいないものを日本版フラウンホーファーモデルのようなものに転換していくことで、より効率的、効果的な使い方が可能になると考えております。

使い方の改善につきまして、各省の御審議をお願いしたいと存じます。

【松山科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

最後に私からも一言申し上げます。

各大臣を初め、皆様方のこれまでの御協力に感謝をいたします。

先程説明があり、また各大臣等の御発言にもあったとおり、統合イノベーション戦略について

ては検討途上でありまして、今後盛り込む予定の項目もございます。関係省庁との間でしっかり調整をし、中身を詰めていきたいと思っております。

特に大学改革に関しては、大学が我が国のイノベーションの中核を担ってくよう、経営と教育の機能分担や財源の多様化を通じたガバナンス改革の方策、また若手の活躍促進策などについて検討を進めてきております。林文部科学大臣初め関係大臣とよく連携をさせていただき、具体的な政策を戦略の中で打ち出してまいります。

また、政府事業のイノベーション化を公共事業、公共調達、社会保障関連事業などの分野で進め、先進技術の社会実装を後押しするため、総合科学技術・イノベーション会議の情報収集・分析能力の強化に取り組んでまいります。

更にAIに関しましては、大学教育、リカレント教育、人材流動化など幅広い分野における人材の育成・獲得の取組が急務であり、関係省庁と連携して、目標を明確化し、分野の全体を見通した総合的な施策を検討してまいります。

このように、統合イノベーション戦略では、単に方向性を示すだけでなく、具体的な政策への落とし込みを図り、世界最高水準のイノベーション国家の創造に向け、取り組んでまいりたいと考えています。

各大臣の皆様方におかれましても引き続きの御協力をお願いいたします。

それでは、本日、国会審議のために菅官房長官は御欠席となりましたので、官房長官の御挨拶を代読させていただきたいと思っておりますが、ここでプレスを入れさせていただきます。

(プレス 入室)

**【松山科学技術政策担当大臣】**

それでは、官房長官の御挨拶を代読させていただきたいと思っております。

本日、今年の年央に閣議決定する統合イノベーション戦略の策定に向けて、今後早急に検討、調整すべき主要目標、及び政策について議論を行いました。

本日話題に上った大学改革、政府事業のイノベーション化、人工知能、農業、環境エネルギーの各課題は、それぞれが重要であり、また有機的な連携のもと、政府が一丸となって進めていく必要があります。

我が国を世界で最もイノベーションに適した国とするため、内閣府及び関係省庁におきましては、次回会議の場でこれらの主要目標及び施策の調整結果を報告いただけるよう、精力的に取り組んでいただきたいと思います。

各大臣におかれましては、引き続きリーダーシップを発揮いただくよう、お願いをいたします。

以上でございます。

プレスの方々、ここで退室をお願いいたします。

(プレス 退室)

**【松山科学技術政策担当大臣】**

本日の議事は以上です。

本日の資料及び議事録は公表させていただきます。

以上で会議を終了させていただきます。ありがとうございました。